

はこねさん 箱根山組合の視察研修を受入れました！！ ～箕面ふれセンなどの活動ノウハウを伝授？！～

箕面森林ふれあい推進センターは、静岡県三島市の箱根山組合からの要請により、平成30年3月15日(木)から16日(金)の2日間、視察研修を受入れました。

箱根山組合は箱根西麓(静岡県側)の山間部の土地(財産区財産:約2,000ヘクタール)を管理されている組合ですが、返還された一部の山林をフィールドとして、「森のたねまき」という団体が小学生以上の子ども達を対象に実施している森林環境教育「森の楽校」を後援されており、当日は組合職員2名、森のたねまき6名の合計8名が遠路にもかかわらず参加されました。

受入れ体制は、当センター職員4名と、NPO法人みのお山麓保全委員会1名、NPO法人里山倶楽部2名にも視察場所の説明者としてご協力をいただきました。

3月15日は、①近畿中国森林管理局1階の展示ギャラリーにおいて、展示物を利用して当センターの全体的な取組みを紹介、②箕面国有林に移動し、森林環境教育プログラム「森の探検隊」の説明やポイントを案内した後、森林ESDやシカ被害対策等について講義を行いました。

昼食後は、箕面ビジターセンターに移動し、③みのお山麓保全委員会の高島事務局長から、ビジターセンターの展示物の説明や山麓保全委員会の企画事業の紹介等をしていただき、初日を終了しました。



参加者からは、箕面ふれセンの取組みについて、各団体と連携し、フィールドを活かしながらのプログラムなど大変参考になった。また、自分たちが何処までできるか分からないが、シカ対策については大変興味深いものがあった。

また、みのお山麓保全委員会の取組みについて、取り組まれている規模の大きさに圧倒されました。組織の大小の差はありますが、みのお山麓保全委員会さんがいかに地元・地域と行政のパイプ役を担っているのかを知り、私たちも地元・地域に貢献できる取組みに繋がりたいと感じました。また、ビジターセンターも大変興味深く、楽しく拝見させていただいた。などの感想をいただきました。



3月16日は、南河内郡河南町の里山倶楽部へ移動し、里山倶楽部の本拠地や活動地を見学しながら、西村代表から取組み等について丁寧に説明をしていただき、昼食は西川副代表の米粉入り手作りピザなどを全員で手伝い、和やかな時間を過ごしていただきました。

参加者からは、里山倶楽部の長年の地域貢献と実績、その歴史の深さに感嘆しました。里山倶楽部さんをはじめはボランティア団体からスタートし、今に至るまでのスタッフや会員のモチベーションの持ち方など、色々なお話を聞いたのは大変有意義だった。などの感想をいただきました。

当センターでは、今後も大阪府下のみならず他府県からの視察研修等を可能な限り受入れることにより、センターが地域と連携しつつ取り組んでいる森林環境教育(森林ESD)などを広く普及させて行きたいと考えています。



ジビエカレー無料試食会と小さな森のフェスタに出展!! 子ども達が「水源の森」ジオラマづくりを体験!! ~

シカ肉を食べてみたい子ども達にジビエカレーの無料試食会

3月21日(祝)、近畿中国森林管理局内ジビエ料理専門レストラン杣(SOMA)において、子ども達にシカ肉を食べる経験をしてもらうために、ジビエカレーの無料試食会が開催され、ニホンジカ被害対策を行っている当センターも協力し、試食会に参加した約20人の子ども達に「水源の森」ジオラマづくりを体験していただきました。



天満小さな森のフェスタ

また、5月13日(日)には、ジビエ料理専門レストラン杣(SOMA)をプロデュースしている、NPO法人ワンワールドフォー チルドレン主催の「第3回天満小さな森のフェスタ」に近畿中国森林管理局が協賛し、当センターも「水源の森」ジオラマづくりで出展しました。

当日は、警報が出るほどの大雨で「ヤギショー」などの多くのブースは中止となりましたが、庁舎内で出展したジオラマづくりは、30名を超える家族連れに体験をしていただくことができました。



「水源の森」ジオラマづくりでは!!

両日とも「きんきちゅうごく森林づくりの会」のご協力をいただきました。前段で子ども達に「水源としての森林」、「森林の保水力」、「水の循環」などについて話をし、森林と水との繋がりへの理解を深めていただきました。

ジオラマづくりの材料は、大地に見立てたマツやケヤキの樹皮、樹木は乾燥させたイタドリの花穂に、葉っぱは色づけをしたミズゴケといった自然素材を使って作ります。40分程度の時間をかけて完成した作品を親子で見入りながら、森林と水のことを改めて考えていただくきっかけとなりました。

参加した子ども達からは、「本物みたいで楽しかった」、「水は川に流れたり、地面に流れて木が育っているんだなと思った」などの感想もあり、森林の大切さなどを感じていただくことができました。

ジオラマ

づくり

さあ、ジオラマづくりの開始



ジオラマ完成☆



特定外来生物ウシガエルの駆除を実施しています！！

箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」(箕面体験学習の森)の花の谷には、これまでの植生等調査の結果、トノサマガエル(環境省・大阪府準絶滅危惧種)やシュレーゲルアオガエル(大阪府準絶滅危惧種)、モリアオガエル、また、ウシガエル(特定外来生物・総合対策外来種)等の生息が確認されています。

ウシガエルは、口に入る大きさの動物であれば幅広く捕食することから、花の谷の人造池に生息しているカエルや水生昆虫、メダカにとっては天敵ともいえる厄介者です。

当センターも委員となっている「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」は、この状況を重く受け止め、花の谷の生物多様性の保全のために、今年度から連携してウシガエルの捕獲・駆除を始めました。

協議会でタモ網やアナゴかごを準備していただき、5月16日(水)と6月1日(金)の午前に、市民団体、大阪府、当センターや京都大阪森林管理事務所から延べ25名が参加し、ウシガエルのオタマジャクシ83匹、生体13匹を捕獲・駆除しました。

一度や二度では駆除できませんが、これからの時期はウシガエルも卵塊を産卵する時期に入ることから、卵塊確認のための定期的な巡視や協議会と連携した捕獲・駆除に粘り強く活動していく予定です。

モリアオガエル



モリアオガエルの卵塊



アナゴかご



ウシガエルは外来種です！

ウシガエル



ウシガエルのオタマジャクシ



捕獲



ふうちゃん (楓)

らくちゃん (様)

おうちゃん (桜)

デジ君

学校の夏休みを活用して 2つの教員研修を実施しました!!

「森の探検隊」教員研修

7月24日(火)、箕面国有林「エキスポの森」内の「体験学習の森」において、箕面森林ふれあい推進センターが開発した「森の探検隊」プログラムの活用と充実を図ることを目的に、教育研究会理科部会と共催で第4回目となる平成30年度「森の探検隊」教員研修を開催しました。

当日は酷暑の中、箕面市内の小学校教員9名、探検隊とネイチャーゲームのスタッフとして「大阪森林インストラクター会」から2名、間伐体験のスタッフとして「きんきちゅうごく森づくりの会」から3名、当センター職員4名、合計18名が参加しました。

午前は、2班に分かれて「森の探検隊」をインストラクターから助言を受けながらポイントを回り、小学生が理解できない設問や新しく設問になるものはないかなど、教員目線で検証をしていただき、教員から「池にいたカエルやオタマジャクシが探検ポイントにならないか」等の多くの意見をいただきました。



また、午後からは葉っぱクイズなど校庭などでも気軽にできるネイチャーゲームを全員で体験した後、酷暑の中での一番の難関、「手鋸による間伐・玉切り」を体験。

「ネイチャーゲーム」では、「今までしたことなかったことや、次に活かせるゲームがたくさんあって楽しかった。」、また、「間伐体験」では、「過酷な暑さの中ですが、間伐をすることの必要性や大変さがよく分かった。また体験したい」などの感想をいただきました。

森林環境教育教員研修



7月30日(月)、箕面国有林勝尾寺園地において、教員の環境教育に対する理解を深め、子ども達への指導に資することを目的に、箕面市教育委員会との共催により森林環境教育を開催しました。研修には環境教育研修を選択した箕面市内の小学校の教員5名が参加しました。

京都教育大学の教育大学の山下宏文教授による、「森林環境教育の重要性と進め方」の講義では、「主体的・対話的で深い学び」として森林環境教育の有効性などについて講義をいただき、参加者からは「子ども達に教えていく中で、体験を取入れながら教えることが大切と知った。」などの感想をいただきました。

また、大阪森林インストラクター会(2名)によるネイチャーゲームでは、「葉っぱコレクションをして、自然にふれあうことの楽しさ、大切さを感じることができた。子ども達とやってみよう。」などの感想をいただきました。



「みのお森のセラピー」は、9月と11月にも開催します。皆さんのご参加をお待ちしています！

森林ふれあい推進事業「みのお森のセラピー」

～ 森の中で癒やしを体感！！ ～

6月3日(日)、朝から快晴の中15名の参加者を得て、第1回「みのお森のセラピー」を大阪府箕面市内の箕面国有林(勝尾寺園地周辺)で開催しました。このイベントは近畿中国森林管理局が「森林ふれあい推進事業」として実施団体を公募し、「NPO法人みのお山麓保全委員会」に応募していただき、協定を締結して両者の共催で開催しました。

大阪市内や箕面市内などからの参加者は、勝尾寺園地に到着した後、ストレスチェックや血圧測定を行った後、3班に分かれてセラピーアシストの案内により森の中の癒やしの空間に向かいました。

瞑想したり、クスノキやクロモジなどの匂いを嗅いだり、谷川の水に足を付けて冷たさを体感したり、最後はハンモックに揺られながら心地よい眠りに入っていました。約2時間の非日常的な時間を過ごす中で、心身ともに癒やされた身体を取り戻して行きました。

参加者からは、「森をゆっくり散策して、気分がリラックスできました。」、「初めてでしたが、森と一つになった気がしました。」、「心身ともに体の奥から疲れがとれてスッキリしました。」などの感想をいただきました。

この「みのお森のセラピー」は、9月30日(日)と11月4日(日)にも開催します。皆様のご参加をお待ちしています。



林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
 TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
 〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局3F
 URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
 E-mail kc_fureai@maff.go.jp



エドヒガン植栽地の下草刈り等を実施しました！！ ～箕面自然休養林管理運営協議会～

平成30年10月20日（土）、箕面国有林の「体験学習の森」で明治の森箕面自然休養林管理運営協議会による「エドヒガン」と「ヤマザクラ」の植栽地の下草刈りと、シカによる樹皮剥ぎを防止するための樹木保護ネットの設置が行われました。ボランティアで作業をしていただいたのは、同協議会の活動に協賛されているアサヒビール（株）の社員とそのご家族13名、指導等を担当したのはNPO法人みのお山麓保全委員会（協議会事務局）1名、NPO法人日本ボランティア協会2名、大阪府北部農と緑の総合事務所2名と当センター職員4名の合計22名が参加しました。下草刈りでは、下草が繁茂し鬱蒼とした状態の中、足元の安定や隣との間隔を気にしながらの刈り払いや巻き付いたツルを慎重に取り除いていただき、見違えるほどきれいになりました。

この「エドヒガン」と「ヤマザクラ」は、平成26年11月8日に同社の社員たちがボランティアで植栽されたもので、「体験学習の森」が所在する北摂地域（大阪府北部地域）の里山景観を彩る代表的な樹種です。あと数年もすればきれいな花を咲かせてくれるでしょう。

保護ネットの設置では、増えすぎたシカによる被害の説明と



ネット設置の実演の後、家族単位で2班に分かれて保護ネットを設置していきました。小学生の女の子もお父さんとお母さんを真剣に手伝い、家族の阿吽の呼吸で多くの樹木に保護ネットを設置していただきました。

午後は秋の穏やかな日差しを受けながら、参加者全員で「水源の森」のジオラマづくりに挑戦していただきました。前段で「水を育む森林のはなし」などをして、森林への理解を深めていただいた後、大人も子どもも自分の想像している「水源の森」をイメージしながら真剣に取り組み、できあがった作品に満足されたのか大切そうに持ち帰っていただきました。



飛鳥里山クラブの視察研修を受入れました！！

平成30年10月24日（水）、奈良県明日香村の飛鳥里山クラブの視察研修を受入れました。飛鳥里山クラブは「国営飛鳥歴史公園」のボランティアで、公園の甘樫丘地区等あまかしのおかを主な活動拠点として、里山景観保全や花による見どころづくりなどに取り組まれており、当センターが実施している森林環境教育プログラム「森の探検隊」などの取り組みを今後の活動の参考にと39名が参加されました。

研修では、最初に箕面国有林の概要説明や「エキスポの森」内の箕面体験学習の森での「森の探検隊」などの取組事例を紹介した後、3班に分かれて実際の探検ポイントを案内し、ポイントごとのクイズ設定の意図やそのクイズが小学校の何の科目に対応しているかなどを説明して回りました。

参加者からは、歴史公園とフィールドの違いはあるものの、これからの里山づくりに参考になることが多くあり勉強になった。」などの感想をいただきました。

午後は、箕面ビジターセンターでNPO法人みのお山麓保全委員会から、明治の森箕面国定公園の概要や生息する動物などの紹介の後、2班に分かれて自然解説員から展示室内の紹介を受けながら豊富な展示物を楽しく見学され、帰路につかれました。



「森の探検隊」を初めて体験しました!! ～箕面こどもの森学園の皆さん～

平成30年11月16日(金)、箕面市にある認定NPO法人箕面こどもの森学園の小学部(1～6年生)22名に、箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」で当センターが開発した森林環境教育プログラム「森の探検隊」を初めて体験していただきました。



この学園はユネスコが推進しているESD(持続可能な開発のための教育)を実践している学校で、小・中一貫のフリースクールです。

探検隊はこれまで小学4年生などの同一学年の班編成でしたが、今回は1年生から6年生の縦割りの班編成で当センターも初めての試みであり、探検ポイントの指令書やヒントの内容を低学年でも理解できるのか、体力的に高学年について行けるのか等の不安もある中、子ども達は5班に分かれ当センターや京都大阪森林管理事務所の引率者とともに、予め決めていたポイントを約2時間かけて巡りました。

探検の途中には、野鳥の水浴びを目撃した班や逃げていくニホンリスを目撃した班もある中、幸いなことに天然記念物のニホンザルの群れにはすべての班が遭遇するなど、森の自然とのふれあいを楽しみながら探検隊を実践していただきました。

なお、不安視していた低学年の理解度や体力等については、高学年のサポートもあり無事に終了することができました。

午後は箕面ビジターセンターに移動し、NPO山麓保全委員会の皆さんが事前に採取していただいた水生昆虫の観察や森林、川、水生昆虫の関わり等をクイズで楽しく教わった後、センターの展示物を見学し、子ども達からは様々な質問がありましたが、自然解説員の皆さんは子ども達でも理解しやすい言葉で説明をしていただきました。





これなに〜に??



みんなで楽しいクイズ



たくさんさんの展示物

森林ふれあい推進事業「森の謎解き探検ツアー」 ～ 箕面の森が謎解きの舞台に! ～



平成30年11月25日(日)、大人24名、子ども26名、計50名の参加で、第2回「森の謎解き探検ツアー」を大阪府箕面市内の箕面国有林(政之茶屋園地周辺)で開催しました。(第1回は、8月26日(日)に開催。大人10名、子ども11名、計21名の参加)

このイベントは、近畿中国森林管理局が「森林ふれあい推進事業」として実施団体を公募し、「非営利活動団体vitalink(ヴィタリンク)」に応募していただき、協定を締結して両者の共催で開催しました。

当日は、箕面市で有名な紅葉のシーズンで観光客の車が多いため、現地につながる府道豊中亀岡線の2車線を片側駐車させて片側一方通行にするという状況でした。

大阪市やその周辺からの参加者は、箕面の森の紅葉と府道の片側に駐車する車の長い列を眺めながら政之茶屋園地に到着した後、家族、グループ単位に分かれ、受付で「森に古くから伝わる宝物を壊す。」という犯行予告を受け、宝物を守るために、予告の真意を突き詰め、犯人を捜す冒険を始めました。

参加者は、森の中の各ポイントに提示されたヒントを頼りに、謎解きを進めていきました。いくつかのポイントにはスタッフがいて、謎解きの手助けをしました。この謎解きツアーは、謎を解く知力と移動する体力、人脈、運などが必要です。参加者は謎を解き終わると受付に戻り、答えの番号鍵で宝箱を開けます。最後にスタッフから、海洋のマイクロプラスチックゴミの問題を提示して、参加者に考えてもらいました。

参加者からは、「謎解きが難しかったけど楽しかった。」、「謎解きは、すごく工夫されていた。」、「子どもと一緒に楽しめました。」などの感想をいただきました。



受付で犯行予告を受ける

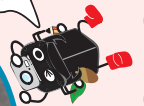


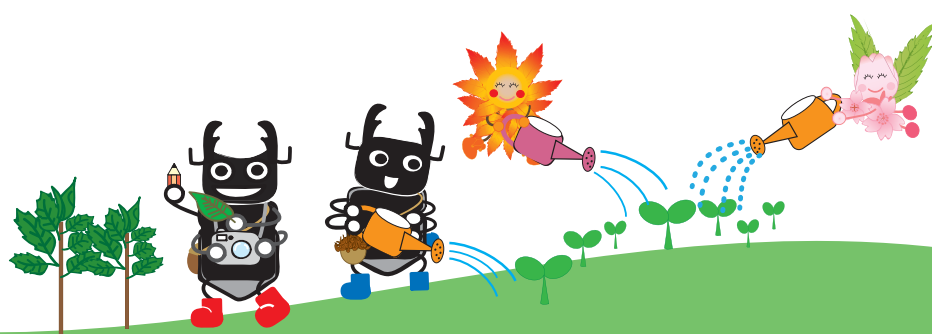
ポイントでヒントを撮影



宝箱をオープン

天然記念物の
オオサンショウウオ
を発見!!





林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号 近畿中国森林管理局内

電話：050-3160-2013 FAX：06-6881-2055

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

E-mail kc_fureai@maff.go.jp

この「年報」は上記アドレスに掲載していますので、ご覧下さい。